

出荷額1億円のうすノ国産農作物

北海道トップクラスの産地でもある

サヤエンドウ

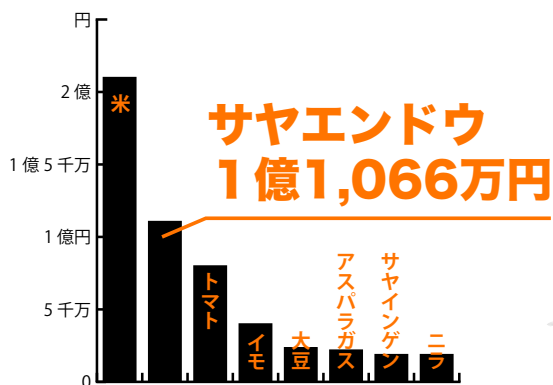
今年で生産開始から38周年

サヤエンドウは、エンドウ豆の仲間で、成熟した豆を食用とするものをエンドウ、未熟なサヤを食用とする場合をサヤエンドウと呼びます（グリーンピースの仲間です）。この作物は25℃以上になると成長が止まるため、春から夏にかけては気温が高い地域での生育が難しくなり、需要が増すことから、本町の冷涼な気候を活かそうと導入が始まりました。

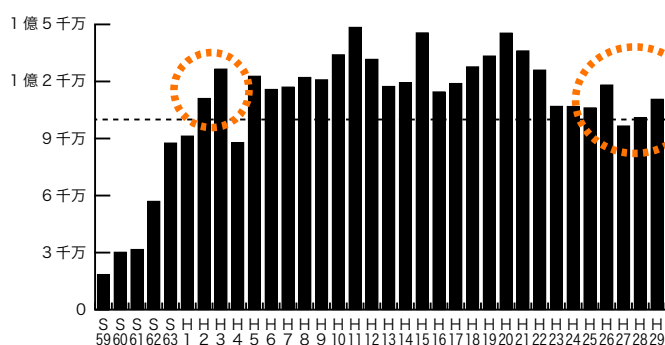
その結果、現在では農業生産全体において米に次ぐ作物となり、北海道でも1位2位を誇る特産品に成長しました。

ここでは、北海道の一大生産地であり、今年生産開始から38（さや）周年を迎えるうすノ国が誇る特産品『サヤエンドウ』をご紹介します。

平成29年度 町内農産物出荷額



昭和59年から平成29年までの出荷額の推移



出荷額推移の要因

上記グラフにもあるとおり、本町の出荷額は、平成2年に初めて1億円を突破して、当時北海道で最大のサヤエンドウ生産地となりました。

本町の農作物全体でも米に次いで2位ですが、作付農家の減少の影響もあり、出荷額は徐々に下降していました。

近年は土壌消毒農法などの影響が一因となって、出荷額が上向いているとのこと。

うすノ国町とサヤエンドウの歩み

うすノ国町では、昭和56年に本格的な栽培が始まり、平成2年には出荷額が1億円を突破。

現在、道内では2位の生産を誇り、品質面では主な出荷先である関西・名古屋・東京方面の市場関係者から「品質が良く、信頼できる」と高い評価を受けています。

なお、本町の出荷額1位である米は、54戸の農家により246トンで約2億円に対し、サヤエンドウは平成29年現在、41戸の農家により14・5トンで約1億円であることから、より少ない面積で高収益を得られる作物でもあります。

サヤエンドウの栽培について

日本国内でのサヤエンドウの栽培は、九州や四国、紀伊半島などの温暖な地域では、11月頃に種まきし、5月頃から収穫されますが、本町では4月に種まきし、冷涼な気候を生かして6月から10月下旬頃まで収穫されます。

酸性の土壌を嫌い、一度作付けしたら5年ほど連作を避ける必要がある作物ですが、近年は土壌消毒を行う農法が普及しはじめ、連作障害（同じ畑に作付けすることで起きる病気などの弊害）の軽減に一役かっています。